

各種連盟

北海道学生サッカー連盟 / 北海道自治体職員サッカー連盟
北海道自衛隊サッカー連盟 / 北海道専門学校サッカー連盟
北海道クラブユースサッカー連盟 / (一社)北海道フットサル連盟
北海道シニアサッカー連盟 / 北海道チャレンジドサッカー連盟
北海道ビーチサッカー連盟



【北海道学生サッカー連盟】

学生サッカーの取り組み



北海道学生サッカー連盟 理事長 濱谷 弘志

北海道学生サッカー連盟では、ここ数年続いた公式戦試合数の減少および、それに伴う競技レベルの低下を改善するため、リーグ戦運営方法の大きな変更を行いました。これまで行ってきた総当たり戦であるレギュラーリーグとその順位に基づいて再度リーグ編成を行い、全国大会出場校、各リーグの昇格、降格を決めるプレーオフを導入しました。具体的には、インカレ全国大会北海道代表を決定するため1部上位4校によるチャンピオンリーグ、次年度の昇格、降格を決めるため、これまでの一発勝負を止め、各チームの順位による1部と2部、2部と3部チームでのチャレンジリーグを創設し、最終的に入れ替えを行うこととしました。その結果、3部から2部へ2校が昇格し2部から3部へ5校が降格するという、これまでに無いリーグ再編が現実となりました。昨年度までは、リーグ終盤に

なると、入替戦に関係ないチームが緊張感を無くす傾向がありました。どのチームも昇格、降格の可能性がうまれたことにより、秋季に緊張感のある勝敗にこだわる試合が繰り広げられ、学生リーグの競技力向上に繋がることが期待されます。今年もシーズン最後まで目の離せない試合が繰り広げられ、どのチームが上位リーグに上がってくるか楽しみにしております。

大学サッカーでは、インカレ、総理大臣杯、インディペンデンスリーグ、新人大会の4つの全国大会が行われています。しかしながらここ数年、北海道代表チームは初戦や予選リーグを突破することができず、苦戦が続いています。今年代表チームにはなんとか全国大会本戦で1勝でも多く勝ち、北海道の大学サッカーのレベルを全国の場で証明してほしいと思います。

【北海道自治体職員サッカー連盟】

現状と今後について



北海道自治体職員サッカー連盟 理事長 八木 康年

2020年度から2023年度までの3年間はコロナ禍により、自治体連盟主催の全ての事業を中止とする対応をとってまいりました。その影響もあり、加盟登録チーム数はコロナ禍前の2019年度の47チームから、2023年度は34チーム、今年度は現時点において24チームとコロナ禍前の約半分まで減少し、連盟の活動に大きく影響が出てしまっているのが現状となっております。

それでも昨年度は4年振りに道内での全ての事業を開催し、全国大会は茨城県ひたちなか市において行われ、道内からは函館市役所と札幌市役所の2チームが出場しております。

今年度につきましては、全道自治体職員サッカー選手権大会は6月15日から3日間旭川市で開催し、全国大会は

7月27日から6日間静岡県藤枝市において50回目の記念大会として、全国から48チームが集まり盛大に開催される予定となっております。また全道自治体職員フットサル大会につきましては、北ブロックが11月3日から2日間名寄市において、南ブロックは2025年3月22日から2日間岩見沢市において開催される予定となっております。

当連盟としては、これからも道内における一種選手の活躍の場の一つとして事業を継続して行くと共に、自治体職員としてそれぞれの地域で健康的に働き続けるため、率先してサッカーやフットサルを通じて心と体を鍛える活動を行って参りたいと考えております。

今後も当連盟の活動に、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【北海道自衛隊サッカー連盟】

昨年を振り返って



北海道自衛隊サッカー連盟 理事長 小澤 義則

2023年全道自衛隊サッカー大会兼第57回全国自衛隊サッカー大会北海道予選が10月21日(土)～22日(日)の両日、千歳市の臨空公園サッカー場で開催されました。日程上この時期は天候が心配でしたが天候にも恵まれ秋晴の空のもとで全道各地から4チームがトーナメント戦を繰り広げ、札幌駐屯地サッカー部が優勝しました。この大会は全国大会の予選も兼ねて行う大会ですが優勝の札幌駐屯地サッカー部が全国自衛隊サッカー連盟への登録を遅延してしまい規定上、参加できなくなり準優勝の滝川駐屯地サッカー部が全国大会に参加しました。教訓としては登録段階で出場チームへの確認が遅かったことと全国の登録をチーム任せにしていたことが挙げられます。また、全国自衛隊サッカー連盟としては北海道自衛隊サッカー連盟の存在を認めていないらしく、北海道の自衛隊での有志組織であり、全国自衛隊サッカー連盟とは独立した組織

であって関係性はないと考えているみたいです(北海道予選の手助けをしている組織と理解)こう言ったことで道連盟から追加登録を要請してもダメだということがわかりました。何十年もやってきて、道連盟の存在が認められていないのは非常に残念なことです、全国自衛隊サッカー連盟の組織も防大サッカー部OBで毎年、役員構成も交代で実施しているらしく実務担当者により考え方が違って今まで何回か調整してきましたが担当者が変わるたびに全国枠が変わっていました。今回も4チーム登録と2チーム登録では枠数が変わっていました。2024年度も大会を実施しますが全道自衛隊サッカー大会として実施します。全国に係るところは各チームが責任をもってやっていただき今後は連盟としての役割を考えながら見直して行きたいと思っています。

【北海道専門学校サッカー連盟】

連盟の現状と今後に向けて



北海道専門学校サッカー連盟 理事長 三谷 直人

北海道専門学校サッカー連盟は、1991年4月24日に誕生しました。本連盟は、「サッカーを通じ、学生の心身の健全な発達、体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図り、併せて専門学校教育の充実、親睦に寄与する」という目的でスタートしました。現在では各種大会運営に関わり、他の種別とも様々な面で協力しながら北海道のサッカー活動の発展に貢献できるよう取り組んでおります。しかし近年では少子化等の影響により専門学校への進学率も低下しており、選手・チーム数の減少が著しく見える形となってきているのが現状です。

新年度における連盟の活動は、4月の理事総会から始まり、春季の「第29回北海道専門学校サッカーリーグ」、

夏季には「第34回北海道専門学校サッカー選手権大会」2つの事業を中心に運営することとなります。

更に今年度、メインの大会となる「第34回全国専門学校サッカー選手権大会」(文部科学大臣杯 全国専門学校総合体育大会 10/7～10)が、サッカー王国静岡県御殿場市の「時之栖スポーツセンター」で初めて開催されることとなっております。2023年度は1回戦敗退と悔しい思いをした北海道代表チームがファイナル進出を狙えるよう、春のリーグ戦から学生たちが切磋琢磨できる環境を連盟として準備していきたいと考えております。

今後も学生たちの笑顔を多くの方々と共有していける連盟としてチャレンジしてまいりたいと思います。

【北海道クラブユースサッカー連盟】

クラブの役割



北海道クラブユースサッカー連盟 理事長 大年 貴之

北海道クラブユースサッカー連盟は、日本サッカー協会、日本クラブユース連盟に帰属するU-18・U-15カテゴリーのクラブを取りまとめている連盟です。

クラブユース連盟が発足し、約30年が経ちました。クラブ文化が無かった時代と比べるとサッカー界においてクラブの定着化が見受けられます。その一方で北海道は人口減少や少子高齢化が進んでおり、これによりサッカーを含むスポーツの参加者や人材の確保が課題となっており、クラブチームや学校のサッカー部の運営が困難になっている地域も出てきています。このような現状から部活動の地域移行やクラブの中体連への移行も見られるようになってきました。

また働き方改革により、これまでの日本のスポーツや部活動を支えてきた学校・教員の部活動への関与も変化しており、部活動自体の活動も制限が出てきています。このような環境の変化の中で、今後クラブの役割が重要な時代になってくると感じております。

クラブは、部活動の地域移行においてスポーツ(サッカー)

指導を提供する役割を担い、ライセンス保有の指導者やコーチが部活動の指導に参加し、適切なトレーニングプログラムや技術指導を行い、生徒たちのスポーツ技術や知識の向上を支援することで北海道全体のサッカーレベルを引き上げていけるのではないかと思います。その為には、地域クラブ、学校、関係者間の協力と連携が必要になり、地域サッカー協会、自治体、教育機関との連携や支援が重要と感じております。また、持続可能な運営や資金確保のための努力も求められ、以上の課題への取り組みによって、部活動の地域移行とクラブの発展が両立されていくのではないかと思います。

北海道クラブユースサッカー連盟では、競技力に特化するのではなく、地域との連携と交流を推進し、サッカーコミュニティとの協力や協力関係の構築を促進することによって、育成年代の(ユースサッカー)発展と成長を支える組織であるようにしたいと考えております。

また、北海道のサッカー文化へ全面的に関与し北海道サッカー協会の一翼を担って行きたいと考えております。

【北海道フットサル連盟】

バモ！フットサル！



一般社団法人北海道フットサル連盟 専務理事 荒川 浩幸

2023年8月27日、北海道のトップチームであるエスポラーダ北海道は、チーム設立15周年を迎え札幌市北海きたえーるで記念マッチを開催しました。シーズンが終了し成績は最下位となりディビジョン2優勝のヴォスクオーレ仙台との入替戦にまわることになりました。残念ながら2024-2025シーズンはディビジョン2で戦うことになったわけですが正直、トップチームの成績は競技全体の盛り上がり方に少なからず影響があります。

チームは、1シーズンでのディビジョン1復帰を目指し新体制で臨みます。そのタイミングで何と、2023年度北海道地域リーグ優勝のSorpresa十勝がプレシーズンマッチとしてエスポラーダ北海道を迎えることがリリースされたのです。5月6日(祝月)新得町総合体育館(サホロアリーナ)に500

名の観客を集めkickoff、接戦の試合内容を制したのはエスポラーダ北海道でした。

事前の準備からホストチームのSorpresa十勝のスタッフ、選手が協会、連盟の協力を得ながら進め、このイベントは、大成功に終わったと感じています。昨シーズンから地域リーグでも地元での開催時にもっと試合を盛り上げるため色々な企画を自チームで考案し実施しています。おらがチームを応援する子供たちやチーム関係者が一体となった会場は、Fリーグ開催時に近い雰囲気です。

我々連盟も自主的な試合演出を支援し、選手のモチベーションを高め、試合を観てくれる方々に魅力あるフットサルを感じてもらえるよう運営に当たっていきたく思います。

バモ！フットサル！



2023年度HFF表彰式

【北海道シニアサッカー連盟】

北海道シニアサッカー連盟の現状と今後



北海道シニアサッカー連盟 理事長 佐藤 英隆

2020年4月に北海道シニアサッカー連盟理事長に就任し、今期で3期目(5年目)を迎えました。理事長就任当初はコロナに翻弄された時期もありましたが、2023年度は全事業を予定通り実施することができました。特筆事項として、2023年9～10月に開催されたJFA第11回全日本O-40サッカー大会で北海道オッサンドーレ札幌40が準優勝という輝かしい成績を収めました。今年度に入っても、6月に開催されたJFA第18回全日本O-70サッカー大会において、FC70室蘭が3位入賞と活躍してくれましたので、他カテゴリーもこれに続いて行ければと思います。

さて、北海道シニアサッカー連盟は2000年に発足し、2024年度で25年目を迎えますが、まだまだ歴史の浅い組織です。連盟は、会長1名・副会長3名・理事長1名・副理事長5名のほか、14名の常任理事、14名の理事、会計監事2名、2022年から新設したEA(Executive Adviser:連盟運営や普及等に関するアドバイザー)2名の総勢42名で理事会を構成し、全国大会につながる真剣勝負の全道シニアO-40/O-50/O-60/O-70サッカー大会、サッカーを楽しむ親睦を深めることが目的の全道シニア8人制オー

ブン大会、北海道シニア8ツアーオープン大会、北海道シニアオープン大会、全道シニアフットサルオープン大会の企画・運営など、競技志向ごとのプレー環境を創出しています。このほか、札幌・道央地区、道南地区、十勝地区、オホーツク地区、釧路地区、根室地区、道北地区で40・50部門のサッカー及びフットサルのリーグを開催しており、60/70以上の部門については、主に道央地区で女子とも連携し夏と冬のリーグ戦を開催しています。

シニア種の登録状況は、2000年のシニア連盟発足時に11チーム・340名でスタートしたのち、年々増加の一途をたどり、2024年6月17日時点で132チーム・2800名程度となっています。

サッカーが生涯スポーツと言われて久しく、シニア種の活動領域がより一層広がることが予想されるため、シニア部門のサッカー環境を充実させ持続可能な組織とする必要があると考えています。そのためには、以下の項目を当面の課題と考え、2021年から開催している勉強会において、今後の方向性を模索しているところです。

- ① 10年後のシニア種のあり方
- ② シニアカテゴリーの普及(ミドル年代からの継続者のスムーズな移行、競技を一時中断した再開者や初心者が入りやすい環境及びニーズにあったサッカーをできる環境の創出)
- ③ 女子部門との連携
- ④ 審判スキルの向上及び資格保持者の増強
- ⑤ 道外地域との交流

【北海道チャレンジドサッカー連盟】

今年度のチャレンジドサッカー



北海道チャレンジドサッカー連盟 会長 佐橋 正智

「熱蹴(あつげり)」。今年度本連盟で掲げたスローガンです。「ゴールを決めるぞ」「パスをするぞ」「ピンチを防ぐぞ」等々、一つ一つのプレーに熱い思いを込めていくことを意識し設定しました。年齢や技術の差、障がいの重軽に関係なく、サッカー好きな全員がサッカーに熱中して楽しめることを、何よりも大切にしたいと思います。

<課題>

昨年度から続いて、競技人口減少が大きな課題となります。コロナ禍の一時的な活動中断により、地域・学校・職場等でサッカーから離れた人たちが、現在に至るまで回復していない状況です。いくつもあるスポーツ・余暇活動の中で、もう一度サッカーに興味を持ち、サッカーに取り組める環境を作ることが連盟の大きな役割です。特に小中学生対象のジュニアチームの減少が大きく、潜在するサッカー好きの子どもたちを受け入れるチーム作りが必要と考えています。

<今年度の活動>

本連盟では、11人制・8人制・フットサル大会を大きな柱として、高等支援学校の大会やチームに所属していない小中学生を交えてのジュニア交流会等を設定しています。また、指導者講習会も開催し、指導者の広がりや質の向上を

図り、新チーム起ち上げにもつなげることを期待しています。同時に、旭川地区でサッカー・フットサル大会、未経験者も対象にしたフットサル教室を開催するなど、活動地域の広がりも目指しています。

昨年度から、肢体不自由など複数の障がい種チームが集まり、インクルーシブフットボールフェスタを開催し、今年度も11月に予定しています。昨年度はウォーキングサッカーや電動車いすサッカーなど、各地で実践されているそれぞれの実態に合わせたサッカーを間近に見ることができ、今年度も更に充実した取組となるよう準備中です。

<更に課題>

昨年度、12月にUAEで開催された「UAE交流プログラム」に参加した日本知的障がい者サッカー女子日本代表チームに、本道から特別支援学校2年生の生徒が選出され活躍してきました。大変喜ばしく名誉なことですが、経費の支援において自己負担の重さが課題となりました。道内チームを全国大会に派遣する際も同様の課題があります。

これらの課題に取り組みながら、今年度も育成と拡大を目指していきます。

【北海道ビーチサッカー連盟】

ビーチサッカーピッチを SSAP に!!



北海道ビーチサッカー連盟 理事長 溝口 昇

昨年、要覧に北海道ビーチサッカー連盟が目指すビジョン「未来のアイランド Beach Sports?!」を掲げました。このビジョンを進めるため、継続的な情報収集・調査(国の環境施策(海の森ブルーカーボン)やスポーツ施設整備施策、石狩市が管理している「あそびーち石狩」の将来像等)・研究及び情報共有や効果的なプロモーション活動を行っています。また、Beach アイランド構想を作成し、関係機関へ働きかけていきます。しかし、このビジョンの実現には長期(10年前後)に渡るものと考えており、諦めず一歩一歩進めてまいります。

一方、北海道ビーチサッカーの現実の事柄に目を向けなくてはなりません。それは、ビーチサッカーの知名度は低く、ビーチサッカーをする環境、練習場や試合場所が少なく、遠方にあることです。北海道のビーチサッカーは、2006年厚真町浜厚真海岸で初めて公式競技として始まりました。2018年までは、道内各地の多くのチームから参加がありました。しかし、2019年以降これまで3チーム前後の参加に留まっています。この要因は、ビーチサッカーを日頃から取り組める環境がないことです。使える海浜地は、比較的チームが集まりやすいあそびーち石狩がありますが、海開き期間中は、海水浴客に迷惑をかけるということで、使用制限されています。また、海開き期間外は、海浜地占有使用料を払わないと使用することができません。その他の海浜地(イタンキ浜(室蘭市)、夕陽ヶ丘ホワイトビーチ(苫前町)、浜厚真海岸(厚真町)は未整備で使用不可)は、片道

3時間を超えるところもあり、日頃から使用できる状況ではありません。このため、年々参加チームが集まらなくなってきており、ビーチサッカーを普及・発展させるまでには至っていません。

日常のビーチサッカー環境「だれもがビーチサッカーの楽しさに触れることができること。身近に心からビーチサッカーを楽しめる場があること。いつまでも、年齢や学年の垣根を越えてビーチサッカーを続けることができる場があること等ビーチサッカーピッチを整備することが急務となっています。

そこで、SSAP 屋内競技場に隣接しているアップ場の半分を、常設のビーチサッカーピッチを整備することについて、HKFA と協働で検討することを提案いたします。このピッチができることにより、北海道ビーチサッカー発信基地として、飛躍的に普及することでしょう。加えて、砂場のフィジカルトレーニングが可能となり、サッカー競技者の足腰が鍛えられる等プラスに作用することになるでしょう。

サッカーファミリーの一員として、ビーチサッカーを普及・発展させるため、活動している当連盟「たつての要望」であります。

最後に、HKFA 関係役員皆様のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。